



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年2月9日

上場会社名 株式会社 エヌアイデイ 上場取引所 大  
 コード番号 2349 URL <http://www.nid.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 清司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 下山 和郎 (TEL) 03 (3365) 2621  
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	10,494	△1.6	549	△12.7	568	△11.3	237	△40.7
22年3月期第3四半期	10,669	△7.1	630	△14.2	640	△14.5	400	△4.3

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第3四半期	62	73	-	-
22年3月期第3四半期	105	72	-	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
23年3月期第3四半期	10,244		5,886		57.5		1,555 03	
22年3月期	10,272		5,818		56.6		1,537 10	

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,886百万円 22年3月期 5,818百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	-	-	-	-	-	-	45	00	45	00
23年3月期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年3月期(予想)	-	-	-	-	-	-	45	00	45	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	15,500	5.3	1,030	13.5	1,050	13.9	480	△10.9	126	80

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 社 (社名) 除外 社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

23年3月期3Q	4,369,830株	22年3月期	4,369,830株
23年3月期3Q	584,237株	22年3月期	584,237株
23年3月期3Q	3,785,593株	22年3月期3Q	3,785,593株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報」(3) 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第3四半期連結累計期間) .....	6
(第3四半期連結会計期間) .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の回復や各種政策効果などを背景に一部景気回復の兆しはあるものの、円高・デフレの長期化および厳しい雇用・所得環境や個人消費の減速など依然として不透明な状況で推移しております。

当社グループの属する情報サービス業界においては、企業のIT投資は回復しつつあるものの、その回復ペースは緩やかであり厳しい受注環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、「戦略的営業活動」として、「とる営業」から「生み出す営業」に取り組むと共に、「第5の事業」である「協調ビジネス」の経験を生かし、現在脚光を浴びているAndroidを対象とした当社独自の「N I Dプラットフォーム」（注1）開発に向け注力しております。

また、iPhone・Androidマーケット向け製品開発の波及効果として、iPhone/iPad、Android関連のアプリケーション開発についての受注が増加しております。

このように、当社グループの技術を生かしつつ新たな事業領域への拡大に取り組んでおります。

売上面では、現場営業の徹底や当社グループの相互連携により受注獲得に努めました。また、収益面では、新卒採用者の抑制、超過勤務管理の徹底や非稼働人員の撲滅等の施策を実施しております。尚、特別損失として、平成22年10月1日付「当社出資先企業の民事再生申立による特別損失の発生に関するお知らせ」にて開示いたしました投資有価証券評価損に加え、金融関係の保有投資有価証券にて評価損が生じたので、157百万円を計上しております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高10,494百万円（対前年同四半期比1.6%減）、営業利益549百万円（同12.7%減）、経常利益568百万円（同11.3%減）、四半期純利益237百万円（同40.7%減）となりました。

注1 N I Dプラットフォーム:アンドロイド上で動作するアプリケーションを簡単に作成するためのミドルウェア。オープンプラットフォームを利用した様々な情報機器へ搭載可能な『NID Mobile Platform』を開発中。

当社グループは当連結会計年度より、従来の「システム開発事業」および「情報処理サービス事業」の2セグメントから以下の6セグメント（当社3事業と関連子会社3社）に変更しております。

- ①「通信システム事業」：通信システムに関するソフトウェア開発およびプロダクト製品開発
- ②「情報システム事業」：ビジネスシステムに関するソフトウェア開発
- ③「ネットワークソリューション事業」：ネットワークに関するサービスおよびシステム運用管理
- ④「NID・IS」：当社3事業の分野およびデータ入力関連事業
- ⑤「NID・IE」：当社3事業の分野
- ⑥「NID東北」：当社の通信システム事業および情報システム事業

各セグメントの状況は、次のとおりであります。尚、セグメントを変更しておりますので、対前年同期の比較は記載しておりません。

#### <通信システム事業>

当事業では、自動車関連の受注増加はありましたが、他の分野では開発案件の縮小、内製化等により厳しい状況で推移いたしました。しかしながら、直近ではAndroid関連のアプリケーション開発の受注が増加しております。この結果、売上高は2,032百万円、営業利益52百万円となりました。

#### <情報システム事業>

当事業では、生損保システム開発や共済システム開発、流通・製造等の案件を引き続き受注し好調に推移いたしました。この結果、売上高は2,133百万円、営業利益188百万円となりました。

#### <ネットワークソリューション事業>

当事業では、運輸・通信業や官公庁等の主要顧客からの受注により安定的に推移いたしました。

この結果、売上高は3,462百万円、営業利益190百万円となりました。

#### <NID・IS>

当事業では、通信システム事業と同様に開発案件の縮小、内製化による影響やデータ入力関連事業の受注減少により厳しい状況で推移いたしました。この結果、売上高は1,540百万円、営業利益49百万円となりました。

#### <NID・IE>

当事業では、景気低迷に伴う派遣需要の減少により厳しい状況にて推移いたしました。この結果、売上高は612百万円、営業利益30百万円となりました。

## <NID東北>

当事業では、主要顧客からの受注は安定的に推移いたしましたが、一部不採算プロジェクトが発生した影響が残りました。この結果、売上高は712百万円、営業利益29百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結累計期間末の総資産は、現金及び預金や棚卸資産の増加、売掛金および有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べ27百万円減少し10,244百万円となりました。負債合計は、短期借入金や退職給付引当金の増加、賞与引当金等の減少等により、前連結会計年度末に比べ95百万円減少し4,358百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ67百万円増加し5,886百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の56.6%より0.9%増加し57.5%となりました。

#### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）につきましては、前連結会計年度末に比べ760百万円増加し4,831百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は423百万円（前年同期は136百万円の増加）となりました。

これは主に、法人税等の支払額および賞与引当金の減少等の支出要因を、税金等調整前四半期純利益および売上債権の減少等の収入要因が上回ったことによるものです。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は201百万円（前年同期は209百万円の減少）となりました。これは主に、資金運用として購入した有価証券の満期償還によるものです。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は136百万円（前年同期は186百万円の増加）となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出および配当金の支払額等の支出要因を、短期借入金による収入が上回ったことによるものです。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期における業績は、前年同期比において若干減少しているものの第4四半期では増加が見込めると予想しているため、平成22年10月28日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

2. 法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、税金等調整前四半期純利益は、6百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は軽微であります。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,903,007	4,132,788
受取手形及び売掛金	1,840,088	2,437,193
有価証券	1,038	301,706
仕掛品	409,730	111,232
繰延税金資産	248,237	433,555
その他	332,803	188,729
貸倒引当金	—	△3,379
流動資産合計	7,734,905	7,601,826
固定資産		
有形固定資産		
土地	136,767	136,767
その他(純額)	106,269	106,599
有形固定資産合計	243,037	243,367
無形固定資産		
ソフトウェア	204,670	203,939
その他	42,285	56,927
無形固定資産合計	246,956	260,866
投資その他の資産		
投資有価証券	433,347	598,468
繰延税金資産	1,005,411	984,492
差入保証金	509,549	509,348
その他	71,565	74,334
投資その他の資産合計	2,019,874	2,166,643
固定資産合計	2,509,867	2,670,877
資産合計	10,244,773	10,272,703
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	244,450	319,321
短期借入金	310,000	—
未払金	427,438	304,336
賞与引当金	455,794	914,866
資産除去債務	6,367	—
その他	372,712	422,702
流動負債合計	1,816,762	1,961,225
固定負債		
退職給付引当金	2,041,673	1,984,921
役員退職慰労引当金	376,255	359,250
その他	123,391	148,459

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
固定負債合計	2,541,320	2,492,630
負債合計	4,358,083	4,453,856
純資産の部		
株主資本		
資本金	653,352	653,352
資本剰余金	488,675	488,675
利益剰余金	6,034,340	5,967,232
自己株式	△1,226,363	△1,226,363
株主資本合計	5,950,004	5,882,896
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△63,313	△64,049
評価・換算差額等合計	△63,313	△64,049
純資産合計	5,886,690	5,818,847
負債純資産合計	10,244,773	10,272,703

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	10,669,854	10,494,097
売上原価	8,733,629	8,629,318
売上総利益	1,936,225	1,864,779
販売費及び一般管理費	1,306,110	1,314,977
営業利益	630,115	549,802
営業外収益		
受取利息	1,688	1,200
受取配当金	4,694	5,246
助成金収入	7,918	16,519
その他	8,042	5,528
営業外収益合計	22,344	28,494
営業外費用		
支払利息	1,480	1,423
投資事業組合運用損	8,177	6,433
投資管理費用	2,257	2,201
その他	157	0
営業外費用合計	12,073	10,057
経常利益	640,386	568,239
特別利益		
貸倒引当金戻入額	318	3,379
退職給付制度終了益	71,859	—
その他	2,302	915
特別利益合計	74,480	4,294
特別損失		
固定資産除却損	2,773	173
投資有価証券評価損	18,000	157,496
役員退職慰労金	10,000	—
リース解約損	52	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	6,130
その他	—	3,521
特別損失合計	30,825	167,322
税金等調整前四半期純利益	684,041	405,211
法人税、住民税及び事業税	81,157	3,857
法人税等調整額	202,687	163,894
法人税等合計	283,844	167,752
少数株主損益調整前四半期純利益	—	237,458
四半期純利益	400,197	237,458



(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	3,592,350	3,366,956
売上原価	2,886,235	2,740,319
売上総利益	706,115	626,636
販売費及び一般管理費	428,090	440,917
営業利益	278,024	185,718
営業外収益		
受取利息	240	125
受取配当金	1,806	1,806
受取保険金	1,875	658
保険事務手数料	1,546	1,742
助成金収入	3,640	6,893
その他	203	202
営業外収益合計	9,313	11,428
営業外費用		
支払利息	585	546
その他	0	0
営業外費用合計	585	546
経常利益	286,753	196,600
特別利益		
貸倒引当金戻入額	318	—
退職給付制度終了益	71,859	—
特別利益合計	72,178	—
特別損失		
固定資産除却損	9	102
投資有価証券評価損	18,000	△36,283
ゴルフ会員権評価損	—	3,200
その他	—	177
特別損失合計	18,009	△32,803
税金等調整前四半期純利益	340,921	229,403
法人税、住民税及び事業税	△112,822	△109,622
法人税等調整額	256,005	193,673
法人税等合計	143,182	84,050
少数株主損益調整前四半期純利益	—	145,353
四半期純利益	197,738	145,353

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	684,041	405,211
減価償却費	86,997	101,034
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△102,852	56,751
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△3,781	17,005
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△318	△3,379
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△421,250	△459,072
投資事業組合運用損益 (△は益)	10,195	8,399
受取利息及び受取配当金	△6,383	△6,447
支払利息	1,480	1,423
投資有価証券評価損益 (△は益)	18,000	157,496
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	321
有形固定資産除却損	253	173
無形固定資産除却損	2,520	—
投資不動産売却損益 (△は益)	△2,302	—
ゴルフ会員権評価損	—	3,200
売上債権の増減額 (△は増加)	420,900	597,105
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△245,271	△295,428
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△93,642	57,326
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	106	219
仕入債務の増減額 (△は減少)	△67,359	△74,870
未払金の増減額 (△は減少)	306,499	108,904
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△13,417	△23,389
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	121,439	107,809
その他	773	2,398
小計	696,627	762,196
利息及び配当金の受取額	6,383	6,564
利息の支払額	△1,480	△1,423
法人税等の支払額	△565,076	△343,964
営業活動によるキャッシュ・フロー	136,454	423,373
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△100,466	△451
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	300,000
有形固定資産の取得による支出	△9,673	△24,479
有形固定資産の売却による収入	—	58
無形固定資産の取得による支出	△112,114	△66,195
投資不動産の売却による収入	13,060	—
その他	△502	△7,388
投資活動によるキャッシュ・フロー	△209,696	201,542
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	870,000	870,000
短期借入金の返済による支出	△510,000	△560,000
配当金の支払額	△170,128	△170,315
その他	△3,153	△3,614
財務活動によるキャッシュ・フロー	186,718	136,070
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	113,476	760,986
現金及び現金同等物の期首残高	3,807,866	4,070,109
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,921,343	4,831,095

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。

当社は、本社に全ての事業を統括する事業本部を置き、本社3事業部（通信システム事業部、情報システム事業部、ネットワークソリューション事業部）及び子会社3社は、事業本部管理のもと事業活動を展開しております。

したがって、当社は事業本部を基とした組織別のセグメントから構成されており「通信システム事業」、「情報システム事業」、「ネットワークソリューション事業」、「NID・IS」、「NID・IE」、「NID東北」の6つを報告セグメントとしております。

「通信システム事業」は、モバイル関連、ホーム及びカーエレクトロニクス、プロダクト開発などを行っております。「情報システム事業」は、生保・損保、共済、官公庁向けのシステム開発などを行っております。

「ネットワークソリューション事業」は、ネットワークに関するサービス、システム運用管理などを行っております。「NID・IS」は、本社3事業部の事業及びデータ入力関連事業を、「NID・IE」は本社3事業部の事業を、「NID東北」は本社の通信システム事業部及び情報システム事業部の事業を、それぞれ総合的に提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						合計
	通信システム事業	情報システム事業	ネットワークソリューション事業	NID・IS	NID・IE	NID東北	
売上高							
外部顧客への売上高	2,032,589	2,133,473	3,462,064	1,540,627	612,547	712,794	10,494,097
セグメント間の内部売上高又は振替高	33,314	46,171	52,817	384,463	511,197	16,457	1,044,422
計	2,065,904	2,179,644	3,514,882	1,925,091	1,123,745	729,252	11,538,519
セグメント利益	52,233	188,421	190,299	49,158	30,760	29,697	540,570

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						合計
	通信システム事業	情報システム事業	ネットワークソリューション事業	NID・IS	NID・IE	NID東北	
売上高							
外部顧客への売上高	611,313	684,647	1,153,768	504,372	215,972	196,881	3,366,956
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,510	15,153	20,573	105,509	168,093	6,483	325,324
計	620,824	699,800	1,174,341	609,882	384,065	203,365	3,692,280
セグメント利益	6,743	58,736	65,293	14,944	17,253	9,778	172,749

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	540,570
セグメント間取引消去	2,457
全社費用（注）	8,694
その他	△1,919
四半期連結損益計算書の営業利益	549,802

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	172,749
セグメント間取引消去	724
全社費用（注）	13,713
その他	△1,469
四半期連結損益計算書の営業利益	185,718

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。